

2024年11月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年7月12日

上場会社名 株式会社ネクスグループ 上場取引所 東
コード番号 6634 URL <https://ncxxgroup.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 直樹
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部本部長 (氏名) 齊藤 洋介 (TEL) 03-5766-9870
四半期報告書提出予定日 2024年7月12日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年11月期第2四半期の連結業績(2023年12月1日~2024年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年11月期第2四半期	485	5.4	△196	-	△195	-	△203	-
2023年11月期第2四半期	460	△78.6	△87	-	△48	-	87	△72.9

(注) 包括利益 2024年11月期第2四半期 △233百万円(-%) 2023年11月期第2四半期 △90百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年11月期第2四半期	△7.43	-
2023年11月期第2四半期	3.22	-

四半期連結経営成績に関する注記

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年11月期第2四半期	3,571	2,931	81.8
2023年11月期	3,080	2,961	96.0

(参考) 自己資本 2024年11月期第2四半期 2,922百万円 2023年11月期 2,955百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年11月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年11月期	-	0.00	-	-	-
2024年11月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年11月期の連結業績予想(2023年12月1日~2024年11月30日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	1,517	75.1	159	-	169	-	153	5.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 1社 (社名) 株式会社ケーエスピー
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年11月期 2 Q	28,828,587株	2023年11月期	27,301,871株
② 期末自己株式数	2024年11月期 2 Q	125,816株	2023年11月期	125,816株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年11月期 2 Q	27,434,679株	2023年11月期 2 Q	27,176,055株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料や記載した当期の業績予想につきましては、現時点での入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。予想に内在する様々な不確定要因や今後の事業運営における内外の状況の変化等により、実際の業績と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(追加情報)	13
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結累計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、経済活動の正常化が進み、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、安傾向の継続やロシア・ウクライナ情勢に起因する資源・原材料価格の高騰など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような事業環境において、当社グループでは、2023年4月に中期経営計画を策定し、新たなネクスグループに生まれ変わるために、成長ドライバーとなる事業の拡大と、メタバース・デジタルコンテンツ事業の拡大、M&Aによる収益力の強化に向けて取り組みを進めております。

2024年3月には、当社を株式交換完全親会社、株式会社スケブ（以下「スケブ」）を株式交換完全子会社とする株式交換を実施することを決議し、株式交換契約（以下「本株式交換」）を締結し、同年7月1日付で完全子会社化いたしました。

スケブは、国内外のクライアントから日本のクリエイターに対して「イラスト」「コミック」「ボイス」「テキスト」「ムービー」「ミュージック」「アドバイス」の7つのジャンルから有償でリクエストすることができるコミッション^{*1} プラットフォーム『Skeb』を運営しております。

*1 コミッションとは、クリエイター(創作者)にクライアント(依頼者)が作品制作を有償で依頼することです。

クライアントは、任意のクリエイターにリクエストを行い、報酬を支払います。報酬はスケブで一旦預かり、クリエイターが作品納品時に、預かっている報酬からスケブがリクエスト手数料を徴収した後、クリエイターに報酬を支払います。

『Skeb』は、「クリエイターの立場を尊重」したサービス設計が特徴で、『Skeb』が始めた「見積もりなし」「打ち合わせなし」「リテイクなし」の一発描き方式は、日本では最も一般的なコミッションの方式として定着しております。

また、自動翻訳機能により世界中のクライアントと簡単にやり取りを可能としたり、報酬の未払いを避けるため制作開始時に報酬を預かるシステムなど、クリエイターはコミュニケーションを最小限に抑えて創作活動に集中することができます。2018年のサービス開始以降、クリエイターと、ファンであるクライアント、両者からの支持を集め、2024年4月にはクリエイターは18万人、クリエイターを含めた総登録者数は320万人、月間取引最高額が6億円を超えるまでに成長をしております。

さらに、2022年のデジタルコンテンツ産業の市場規模は、10兆1,545億円(前年比104.7%)と前年を上回り、順調な成長を遂げており、コンテンツ市場全体に占める割合は76.5%と4分の3を超える規模となっております(一般財団法人デジタルコンテンツ協会『デジタルコンテンツ白書2023』)。加えて、国内クリエイターエコノミーの市場規模は1兆6,552億円で、前年比21.9%増となっており、市場拡大の背景には、ユーザーとクリエイターの繋がりを強化するサービスが増加し、クリエイター個人への課金を促進したこと、VTuber関連や音声配信サービスなどの新興サービスが浸透し、市場の成長をけん引したことが挙げられております(一般社団法人クリエイターエコノミー協会『2023年版国内クリエイターエコノミー調査結果』)。

本株式交換により当社は、注力するデジタルコンテンツ事業の拡大と、既存のメタバース・デジタルコンテンツ事業とのシナジーによる事業成長を目指してまいります。

2024年5月には、簡易株式交換により株式会社ケーエスピー（以下「ケーエスピー」）を完全子会社化いたしました。

ケーエスピーは外食産業・コスメティックショップにおける、消耗品・備品・パッケージ・厨房備品の供給や、各種SPツールから企業向けギフトの提案まで、クライアントの要望に幅広く応えることができる総合商社です。創業してから30年以上が経過し、すでに一定の売上規模と継続的な利益を出しており、コロナ禍においても安定した売上と利益を維持してまいりました。直近の2024年4月期の業績は売上高1,313百万円、営業利益74百万円を計上しており、連結取り込み後もさらなる成長を期待しております。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間の業績については、営業損失を計上しているものの予算通りの数値で推移しております。通期の業績については、前述したケーエスピー及びスケブの子会社化が当期の連結業績に与える影響を精査したうえで、公表すべき事項が生じた場合には速やかに開示を行う予定であります。売上高においては、485百万円(前期比5.4%増)となりました。それに伴い、営業損失は196百万円(前期は営業損失87百万円)、経常損失は195百万円(前期は経常損失48百万円)、税金等調整前四半期純損失は195百万円(前期は税金等調整前四半期純利益91百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は203百万円(前期は親会社株主に帰属する四半期純利益87百万円)となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメントごとの業績は以下のとおりであります。

(メタバース・デジタルコンテンツ事業)

持分法適用関連会社の株式会社ワイルドマンでは、VR上のアバターを操作するためのメタバースユーザー向けワイヤレス・モーション・トラッキング装置の開発案件と、VRゲームの自社コンテンツの開発が進捗しております。

株式会社実業の日本デジタルは、当社の主力作品である『静かなるドン(作者:新田たつお)』は販売実績が復調しており、年末年始の大型キャンペーンや、続編である『静かなるドンーもうひとつの最終章』の発売に合わせたキャンペーンが好調に推移した結果、前年同期比161%を達成いたしました。公式YouTubeチャンネルも公開から1年未滿で登録者数が10万人を突破(2024年6月21日時点の登録者数は101,588人)し、新しいファン層の獲得に繋がっております。

電子書籍で好調の漫画作品(『異世界でタイムした最強の使い魔は、幼馴染の美少女でした(原作:すかいファーム)』『これが運命!?悪役令嬢は愛されるルートに入りました!アンソロジーコミック』『特別じゃない日(作者:稲空穂)』)等の新刊が発売されたことで、相互に良い影響を与える形で既刊の売れ行きも伸びました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は82百万円(前期比17.4%増)、営業利益は7百万円(前期は営業損失4百万円)となりました。

(IoT関連事業)

株式会社ネクスは、培ってきた自動車テレマティクスをはじめとする様々な分野に対するIoT技術をベースに「IoT×ブロックチェーン技術」、「IoT×AI技術」など、「IoT×新技術」を活用した新たなサービスの提供を目指しております。

AIコンピューティングの分野で様々なプラットフォームを提供しているNVIDIA Corporationが提供するGPU(画像処理やディープラーニングに不可欠な並列演算処理を行う演算装置)を利用したリアルタイム画像認識技術と、マルチキャリア対応の高速モバイル通信技術を搭載した、NCXX AI BOX「AIX-01NX」は、各通信事業者との動作確認を進めるとともに、AIソリューションパートナー及び技術パートナーとの共創によるビジネス機会の拡大を進めております。

2024年3月には、人流解析、車両解析を得意とし、地方自治体との人流調査、渋谷センター商店街の賑わい把握、新橋駅前のデジタルサイネージの視認性評価、商業ビル内入館者の行動情報解析や通行量調査など、全国300箇所以上で利用されている「IDEA」に採用されました。業界No.1のAI学習の量と質の精度の高いデータ収集と、リアルタイムでの取得データの可視化・分析、専門家のサポートによるデータの利活用が実現できるサービスになっております。



< IDEA実績 >

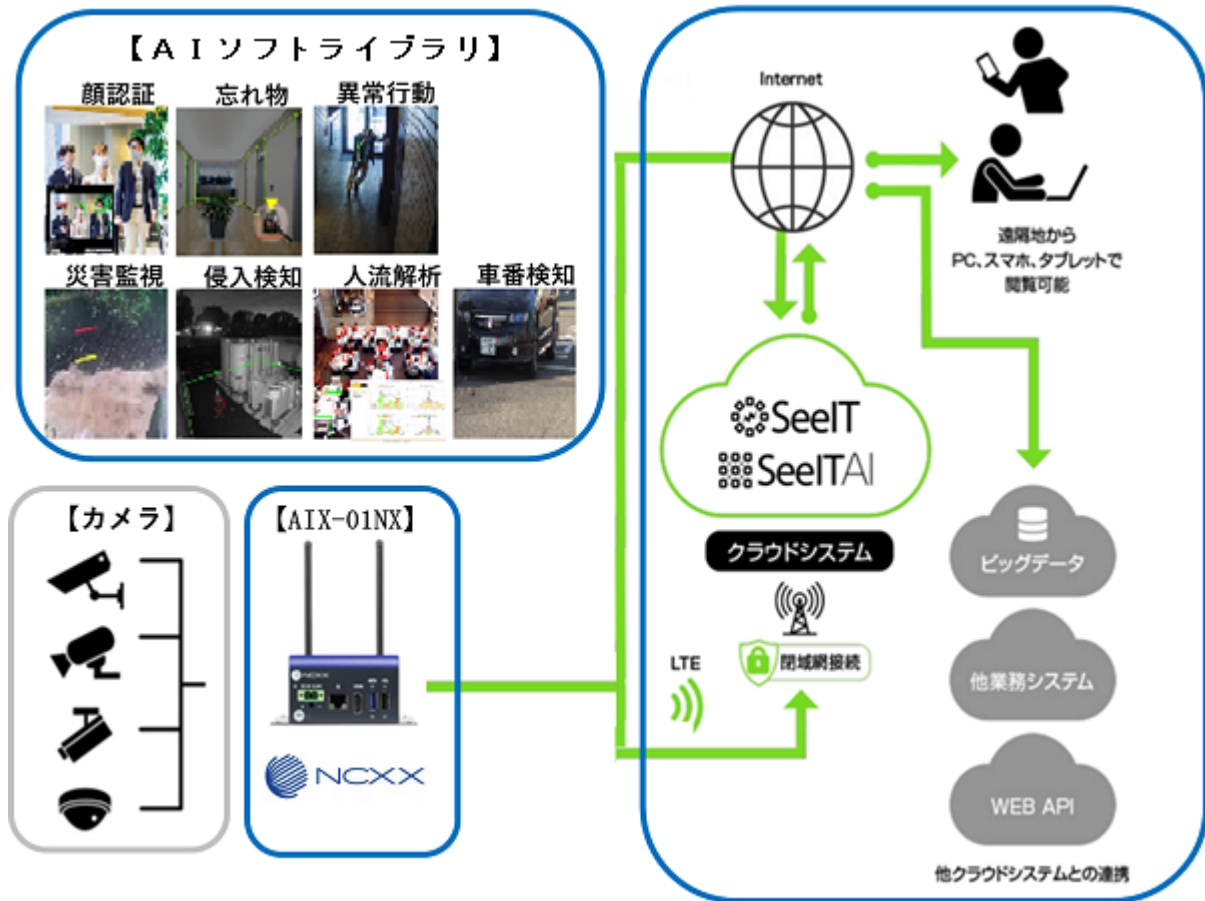


< 歩行空間利用調査 >



< 入場者や駐車場への車両の状況を可視化 >

2024年4月には、大規模施設向け監視カメラシステムでは三井不動産施設を中心に約20,000台、エッジAIによる映像監視では約1,500台の稼働実績を持つ「SeeITAI®」に採用されました。必要な情報だけをクラウドに送信する「分散型クラウド方式」を用いた「エッジ・クラウド」技術、AIによる高度な映像分析をリアルタイムに行う「エッジAI方式」によって、品質、安定性、安全性、コストの面において競争力を有するクラウド型映像監視ソリューションとなっております。



また同年4月に、新たな取り組みとして、エッジAIによる映像分析は、公共空間や事業所内の屋外で人流解析、交通量調査、監視カメラなどの屋外ソリューションに活用範囲が広がっており、屋外での利用を目的とした防塵防水対応のニーズが高まっていることから、「AIX-01NX」本体、電源ユニット、LTE携帯通信アンテナ、HUB/PoE HUB、ブレーカーなどが収容でき、防塵・防水（IP66相当）性能をもつ屋外用ボックス、及び機器温度を検知してファンを起動し、排熱を行う常駐型アプリケーションの実装に向けた取り組みを開始いたしました。この取り組みにより、今までは屋内での利用と屋外でも限定的な使用に制限されていた「AIX-01NX」の利用シーンの多様化を目指します。

さらに、2023年度には約140億円、2027年度には約6,905億円にまで発展すると推測される*対話AIサービスの分野において、独自推論AIエンジンや音声解析技術をもとに開発した会話型AI「Dialogue AI」サービスを展開する株式会社レグラスと「AIX-01NX」を利用した画像解析との連携についての共同研究を開始いたしました。AIの目となる「AIX-01NX」上での画像解析と、会話型AIとの組み合わせの有効性と市場性を見極めることを目的とし病院やホテルの受付、大型店舗、観光・交通案内など多様なシーンで活用できる、新しいサービスの共創を目指します。

*2 出典：シード・プランニング「対話AIサービスの現状と将来展望」

データ通信端末につきましては、5G Phase 2規格となる3GPP Release 16に対応し、Wi-Fi、Ethernetを搭載したバッテリーレスのルーター・モデムとなる、5Gデータ端末「UNX-05G」が、KDDI株式会社のIoTの認証、富士通株式会社提供のローカル5Gスタンドアロンシステム Fujitsu Network PW300との接続検証済製品の認定、及び日本電気株式会社（NEC）が提供するローカル5G Sub 6一体型基地局 UNIVERGE RV1200との接続検証済端末の認定を取得しております。5Gは、LTEと比べて超高速・大容量な通信で多数同時接続、超低遅延を実現するもので、5G Phase 2規格となる3GPP Release 16にいち早く対応した「UNX-05G」は、従来の5G端末よりもモビリティ性能向上、消費電力削減、低遅延化が実現可能となっております。現在、本格導入に向けて、ローカル5Gでは集合住宅向け固定インターネット接続サービス、工場設備の遠隔監視、展示会会場のネットワークインフラでの導入試験が進んでおります。また、パブリック5Gでは、5Gのエリアが広がっているなか、自動運転やAIロボットソリューションの

遠隔操縦、リモートワークブースでの活用、ライブ配信向けの通信端末として導入が期待されております。

テレマティクスにつきましては、NTT docomo/KDDI/SoftBankの国内の主なLTE周波数や、みちびき（準天頂衛星システム）など5方式のGNSS^{*3}に対応し、より多くの衛星測位システムを使うことで、ビルや樹木などで視界が狭くなる都市部や山間部においても測位の安定性が向上したOBD II型データ収集ユニット「GX700NC」が、法的規制強化と車両管理業務の効率化、ドライバーの減少・高齢化など市場を取り巻く社会環境の影響で、需要が増加傾向にあるクラウド型車両管理・動態管理システムにおいて市場を確保しており、排気ガス測定・管理やEV車の充電・電費・残量管理などのSDGsへの取り組みなどにも活用の範囲が広がっております。今後も、新車などの新しい型式への適合や、衛星情報が取得できない地下駐車場から屋外へ移動した場合などの測位までの時間短縮などの改善を進め、さらに活用の範囲を拡充してまいります。

*3 「GNSS」とは「Global Navigation Satellite System（全球測位衛星システム）」の略で、GPS、GLONASS、Galileo、準天頂衛星（QZSS）等の衛星測位システムの総称です。

農業ICT事業（NCXX FARM）では、農作物の生産、加工、販売を行う6次産業化事業において、引き続きスーパーフードとして人気の高いGOLDEN BERRY（食用ほおずき）の生産、販売を行っております。また、加工品としてGOLDEN BERRYフレッシュリキュール、セミドライゴールデンベリーの販売を行っております。

さらに2024年2月には新製品として、「クラフト炭酸リキュール」の販売を開始いたしました。同年4月には岩手県花巻市内の夢コーポレーション株式会社とのコラボ商品として、GOLDEN BERRYアイスをリニューアルし、ゴールデンベリーを従来品の2倍の量を使用し、花巻市産の朝一番の搾りたて生乳を使用した「GOLDEN BERRYプレミアムアイス」の販売を開始しております。

特許農法による化学的土壌マネジメント+ICTシステムによるデジタル管理のパッケージ販売を行うフランチャイズ事業では、自社試験圃場での栽培実績をもとに、自社独自の特許農法（多段式ポット）とICTシステムの提供に加えて、お客様の要望に沿った多種多様な農法・システム・農業関連製品の提供を行う農業総合コンサルティングサービスを展開しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は342百万円(前期比41.1%増)、営業利益は21百万円(前期比142.5%増)となりました。

（暗号資産・ブロックチェーン事業）

本事業では、NCXC（ネクスコイン）を利用したサービスの向上、NCXCの流通促進、NCXC保有者の拡大を通じたNCXC経済圏の拡大を目指し、価値向上に向けた取り組みを行っております。

NCXC GameFiプラットフォームの開発を行い、ゲーム会社とのアライアンスにより、世の中で既に実績を上げている他社ゲームタイトルを中心に、これらを簡単にPlay to Earnのゲームに転換することのできるプラットフォームサービスの提供を目指しております。

また、暗号資産市場の動向と資金効率を踏まえた暗号資産の安定的な運用を行ってまいります。

なお、従来、活発な市場が存在しない暗号資産の評価損は、「売上高」にマイナス表示しておりましたが、当第2四半期連結累計期間より、「売上原価」に含めて表示する方法に変更しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は0百万円(前期比99.8%減)、営業損失は86百万円(前期は営業利益36百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

資産の残高は、前連結会計年度末と比較して、491百万円増加し、3,571百万円となりました。

この主な要因は、現金及び預金が326百万円増加、売掛金が206百万円増加、商品及び製品が60百万円増加、仕掛品が45百万円増加したものの、暗号資産が78百万円減少、のれんが40百万円減少したことによります。

(負債)

負債の残高は、前連結会計年度末と比較して、521百万円増加し、640百万円となりました。

この主な要因は、支払手形及び買掛金が167百万円増加、社債^{*4}が57百万円増加、借入金^{*5}が250百万円増加したことによります。

*4 1年内償還予定の社債、社債残高の合計です。

*5 1年内返済予定の長期借入金、長期借入金残高の合計です。

(純資産)

純資産の残高は、前連結会計年度末と比較して、30百万円減少し、2,931百万円となりました。

この主な要因は、資本剰余金が199百万円増加したものの、利益剰余金が203百万円減少、その他有価証券評価差額金が31百万円減少したことによります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の期末残高は、前連結会計年度末と比べて322百万円増加し、806百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により支出した金額は139百万円（前年同四半期は46百万円の資金獲得）となりました。

これは主に、資金の増加要因としてのれん償却額48百万円、暗号資産の減少78百万円があり、減少要因として売上債権の増加19百万円、棚卸資産の増加74百万円があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した金額は112百万円（前年同四半期は242百万円の資金獲得）となりました。

これは主に、資金の減少要因として投資有価証券の取得による支出10百万円、関係会社株式の取得による支出100百万円があったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により獲得した金額は20百万円（前年同四半期は15百万円の資金支出）となりました。

これは主に、資金の増加要因として社債の発行による収入20百万円があったことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年1月18日の「2023年11月期 決算短信」から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	483,728	809,752
売掛金	206,603	413,562
商品及び製品	6,453	67,321
仕掛品	485,614	531,612
暗号資産	103,439	25,216
その他	111,861	95,689
貸倒引当金	△1,397	△2,498
流動資産合計	1,396,304	1,940,656
固定資産		
有形固定資産	157,423	155,125
無形固定資産		
のれん	807,237	766,800
その他	52,718	46,972
無形固定資産合計	859,956	813,773
投資その他の資産		
投資有価証券	633,532	611,870
その他	32,934	50,204
投資その他の資産合計	666,466	662,074
固定資産合計	1,683,846	1,630,974
資産合計	3,080,151	3,571,630
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,769	172,343
1年内償還予定の社債	-	14,000
1年内返済予定の長期借入金	11,000	117,910
未払法人税等	17,964	40,109
製品保証引当金	16,000	16,000
その他	57,732	77,632
流動負債合計	107,466	437,995
固定負債		
社債	-	43,000
長期借入金	-	143,754
その他	11,184	15,728
固定負債合計	11,184	202,482
負債合計	118,651	640,477

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	4,776,701	4,976,701
利益剰余金	△1,762,312	△1,966,194
自己株式	△66,515	△66,515
株主資本合計	2,957,873	2,953,992
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	-	△31,662
繰延ヘッジ損益	△1,965	90
その他の包括利益累計額合計	△1,965	△31,571
新株予約権	5,240	8,384
非支配株主持分	351	348
純資産合計	2,961,499	2,931,153
負債純資産合計	3,080,151	3,571,630

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
売上高	460,832	485,855
売上原価	※1 253,832	※1 371,840
売上総利益	206,999	114,015
販売費及び一般管理費	※2 294,079	※2 310,715
営業損失(△)	△87,079	△196,699
営業外収益		
受取利息	620	1
受取配当金	18,997	-
協賛金収入	2,000	2,000
雑収入	2,676	2,563
その他	19,615	2,923
営業外収益合計	43,909	7,489
営業外費用		
支払利息	604	421
持分法による投資損失	4,410	1,634
支払手数料	500	4,220
その他	34	11
営業外費用合計	5,549	6,288
経常損失(△)	△48,720	△195,498
特別利益		
投資有価証券売却益	134,633	-
その他	7,745	-
特別利益合計	142,378	-
特別損失		
投資有価証券評価損	2,026	-
特別損失合計	2,026	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	91,631	△195,498
法人税、住民税及び事業税	4,166	8,386
法人税等合計	4,166	8,386
四半期純利益又は四半期純損失(△)	87,465	△203,885
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△3
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	87,465	△203,881

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	87,465	△203,885
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△184,774	△31,662
繰延ヘッジ損益	7,146	2,056
その他の包括利益合計	△177,627	△29,605
四半期包括利益	△90,161	△233,490
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△90,161	△233,487
非支配株主に係る四半期包括利益	-	△2

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	91,631	△195,498
減価償却費	6,688	10,348
のれん償却額	48,923	48,923
受取利息及び受取配当金	△19,617	△1
投資有価証券売却損益(△は益)	△134,633	-
売上債権の増減額(△は増加)	201,554	△19,746
仕入債務の増減額(△は減少)	11,701	△1,710
棚卸資産の増減額(△は増加)	△80,364	△74,741
暗号資産の増減額(△は増加)	△50,492	78,222
未払費用の増減額(△は減少)	△28,594	3,024
その他	△20,846	15,838
小計	25,951	△135,341
利息及び配当金の受取額	20,446	1
利息の支払額	△604	△275
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	209	△4,206
営業活動によるキャッシュ・フロー	46,003	△139,821
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△46,197	△1,174
投資有価証券の取得による支出	-	△10,000
投資有価証券の売却による収入	276,900	-
関係会社株式の取得による支出	-	△100,000
その他	12,202	△1,590
投資活動によるキャッシュ・フロー	242,905	△112,764
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△6,900	-
長期借入金の返済による支出	△8,332	-
社債の発行による収入	-	20,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,232	20,000
現金及び現金同等物に係る換算差額	340	43
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	274,017	△232,541
現金及び現金同等物の期首残高	508,962	483,728
株式交換による現金及び現金同等物の増加額	-	554,965
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 782,980	※ 806,152

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年5月1日を効力発生日として、当社を株式交換完全親会社、株式会社ケーエスピーを株式交換完全子会社化とする簡易株式交換を行っております。この結果、資本剰余金が199百万円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において、資本金は10百万円、資本剰余金が4,976百万円となっております。

(追加情報)

(表示方法の変更)

当社グループは、暗号資産・ブロックチェーン事業において暗号資産への投資を行っております。従来、活発な市場が存在しない暗号資産の評価損については、「売上高」のマイナスとして計上しておりましたが、当第2四半期連結会計期間より、「売上原価」に計上する方法に変更しております。

これは、事業運営の実態をより適切に経営成績に反映させるため、表示方法を変更するものであります。

この結果、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、売上高に表示していた△64,621千円を売上原価に組み替えております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)	四半期 連結 財務諸表 計上額
	IoT関連 事業	メタバース ・デジタル コンテンツ 事業	暗号資産 ・ブロックチ ェーン 事業	その他	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	243,150	69,909	125,241	22,530	460,832	—	460,832
外部顧客への売上高	243,150	69,909	125,241	22,530	460,832	—	460,832
セグメント間の内部売上高又は振替高	12,000	—	—	114	12,114	△12,114	—
計	255,150	69,909	125,241	22,644	472,946	△12,114	460,832
セグメント利益又は損失(△)	9,010	△4,511	36,113	△2,066	38,545	△125,625	△87,079

(注) セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)	四半期 連結 財務諸表 計上額
	IoT関連 事業	メタバース ・デジタル コンテンツ 事業	暗号資産 ・ブロックチ ェーン 事業	その他	計		
売上高							
顧客との契約か ら生じる収益	342,968	82,093	215	60,577	485,855	—	485,855
外部顧客への 売上高	342,968	82,093	215	60,577	485,855	—	485,855
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	12,000	—	—	171	12,171	△12,171	—
計	354,968	82,093	215	60,748	498,026	△12,171	485,855
セグメント利益 又は損失(△)	21,847	7,002	△86,516	△12,052	△69,718	△126,981	△196,699

(注) セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「注記事項(追加情報)(表示方法の変更)に記載のとおり、従来、暗号資産・ブロックチェーン事業において保有する活発な市場が存在しない暗号資産の評価損については、「売上高」に計上しておりましたが、当第2四半期連結会計期間から「売上原価」に計上する方法に変更しております。これに伴い、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報についても組替えを行っております。